

12) 広島県

浜田展也（広島県教育研究会理科部会生物部）

(1) 調査への取り組み

2008年4月19日～20日に倉敷市立自然史博物館で、「タンポポ調査・西日本2010」実行委員会の設立集会在開催されたとき、広島県からも数名が参加者した。その後、調査のための組織体制等についてなにも進展のないまま時間が経過したが、中国ブロックの代表からの要請を受けて、広島県教育研究会理科部会生物部(以下生物部と呼ぶ)で調査を行うこととし、2009年3月24日の生物部総会において「タンポポ調査・西日本2010」の広島県における調査を行うことを正式決定した。

2009年の予備調査では、広島県を生物部の活動上の地域区分である広島地区、呉地区、福山地区、尾三・三次地区の4地域に区分して、生物部会員とOBが中心となって調査ととりまとめを行った。会員への周知が遅くなったこともあって、予備調査の有効データ数は419件にとどまり、県中～北部や島嶼部のデータが非常に少なく、分布の傾向がつかめるようなデータにはならなかった。

2010年の本調査は、生物部会員への呼びかけを行うとともに、北広島町の「高原の自然館」をはじめとする生物部以外からの協力もお願いし調査を行った。2010年3月25日には広島市立基町高等学校において研修会を開催し、兵庫県立人と自然の博物館の鈴木武さんの指導で調査方法の確認や、種の同定、花粉の観察方法などについて研修を行った。広島城址での現地研修でカンサイタンポポ、シロバナタンポポ、セイヨウタンポポ、アカミタンポポ、外来種の雑種タンポポを見ることができた。

本調査は生物部会員とその勤務する高等学校の生徒、生物部OB、賛同された一般の方などによって3月1日から5月31日までの間調査が行われた。データのとりまとめは予備調査の時と同様に4つの地域区分で行い、その結果、広島県実行委員会には3254件のデータが集まった。

(2) 結果の概要

① データの得られた地域

図1は2010年の本調査でデータの得られたメッシュの分布図である。広島市や福山市、尾道市、呉市、東広島市の市街地とその周辺など、調査参加者の数が多い地域や精力的に調査を行った調査参加者がいた地域にデータが集中しており、参加者が少なかった県中部から北部のデータ数は少なかった。また、当然のことながら山林の多い地域ではデータ数が少なく市街地や耕地の多い地域ではデータ数が多かった。しかし、データの粗密は、調査参加者の粗密の影響が大きいと思われる。県内全域とまではいかないが、広い範囲のデータを集めることができた。

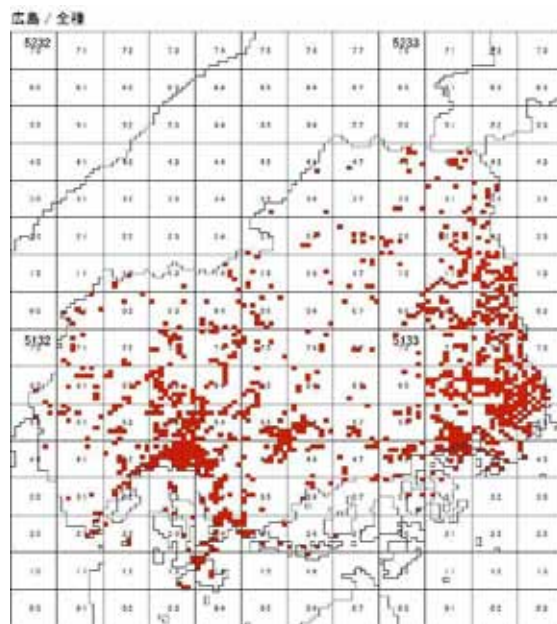


図1 広島県でデータのあるメッシュ

② タンポポの種類

表1にタンポポの種別集計結果をあげた。本調査では二倍体在来種のカンサイタンポポ、黄花倍数体在来種のクシバタンポポ、ヤマザトタンポポ、シロバナ系在来種のシロバナタンポポ、

キビシロタンポポ、外来種のセイヨウタンポポ、アカミタンポポ、外来種の雑種が記録された。

内訳は雑種と不明の外来種(瘦果が無いため同定できなかったもの)が最も多く1156件、次いでセイヨウタンポポが981件、アカミタンポポが321件と外来種が非常に多かった。また、雑種タンポポが広島県にも数多く存在することがわかった。

在来種ではシロバナタンポポの312件が最も多く、次いでキビシロタンポポの241件が多く、広島県の在来種はシロバナ系が多いことがわかる。

黄花の在来種では、カンサイタンポポが173件で最も多く、ヤマザトタンポポが19件、クシバタンポポが10件であった。黄花倍数体在来種は調査の手薄な地域に多いため、データ数が少なく、カンサイタンポポは熱心に調査した参加者がいた地域に多かったため、データ数が多いと考えられ、実際の個体数を反映したものとはいえない。

無効となったデータは、無頭花のものが13件、ブタナやノゲンなどの他種であったものが42件、位置情報不備のものが6件あった。

表1 タンポポの種別集計結果

種名	データ数
全在来種	772
二倍体在来種	173
カンサイタンポポ	159
その他の二倍体在来種	14
黄花倍数体在来種	30
クシバタンポポ	10
ヤマザトタンポポ	19
その他の黄花倍数体	1
シロバナ系在来種	
シロバナタンポポ	312
キビシロタンポポ	241
その他のシロバナ系	16
外来種(雑種を含む)	2458
セイヨウタンポポ	981
アカミタンポポ	321
その他の外来種(雑種を含む)	1156
不明(タンポポ)	24
全種合計	3254

③ タンポポの分布状況

a. 二倍体在来種

二倍体在来種はカンサイタンポポが記録された。

カンサイタンポポはほとんどが南東部の福山市神辺町周辺で記録されており、広島市の市街地周辺にも少し分布していて、その他の地域では非常に希であった。カンサイタンポポは隣接する岡山県では非常に多く、ごく普通にみられるのに対して、広島県では希な種である。最も多く記録された福山市神辺町周辺は、岡山県井原市と平野で接しており、カンサイタンポポが西へと自然分布を広げていく最前線にあるように見える。他の地域でのカンサイタンポポの分布は旧街道沿いや、古い庭園、城址などが含まれ、人の移動に伴う分布ではないかと考えている。

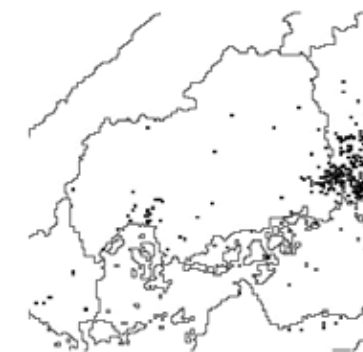


図2 カンサイタンポポの分布

b. 黄花倍数体在来種

黄花倍数体在来種は、クシバタンポポとヤマザトタンポポが記録された。

クシバタンポポの分布は北東部の中国山地沿いの中山間地域に限られている。全域の分布図でも中国山地沿いに点在している。西北部の西中国山地沿いからはデータが得られなかったが、島根県側には分布しているので、今後の調査で見つかる可能性は高い。1989年に尾道市の向島で採集された標本があり、県内の南限で



図3 クシバタンポポの分布

あるが、現在はその地点では見られず、本調査ではデータを採
 できなかつた。ヤマザトタンポポは北東部から南東部にかけて点
 在している。クシバタンポポと似た分布であるが、より南の瀬戸
 内沿岸部まで分布している。全域分布図を見ると、日本海側では
 海岸付近まで分布しているが、岡山県や兵庫県では瀬戸内沿岸部
 には分布していない。広島県東部で瀬戸内沿岸部にまで分布する
 要因はわからないが、石灰岩や古生層の分布する地域とほぼ重な
 っていることから、地質または地史的要因が大きいかもしれない。
 西部からのデータが本調査では得られていないが、北広島町や安
 芸太田町で採集された1980年代の標本があるので、全く分布し
 ていないわけではない。



図4 ヤマザトタンポポの分布

両種ともに西部から記録されなかつたのは、調査密度の影響もあるかもしれないが、広島県植物
 誌などの標本データからも北東部のほうが多く分布していると考えられる。西部の険しい地形が要
 因ではないかと考えている。

c. シロバナタンポポ

シロバナタンポポは中国山地の高所を除く全域に広く分布し
 ている。広島県ではタンポポといえばシロバナタンポポというぐ
 らい広く多く分布し、外来種が広がる以前は白いタンポポしかな
 かつた地域が多い。それからすれば、東広島市の賀茂台地から三
 次盆地にかけて、もっとデータがあってもよいであろうし、中央
 部の世羅台地や北東部の庄原市のデータが非常に少ない。調査密
 度が低いためであろう。



図5 シロバナタンポポの分布

d. キビシロタンポポ

キビシロタンポポは東部に偏って分布している。全域分布図を
 見ると、岡山県に分布の中心があり、それにつながって分布して
 いるのがよくわかる。同じように岡山県に多いカンサイタンポポ
 は岡山県の南部に多いのに対して、キビシロタンポポは中部から
 北部の吉備高原面に分布しており、吉備高原の続きである世羅台
 地の東部まで連続して分布している。カンサイタンポポは平地の
 タンポポなので岡山県井原市と福山市神辺町との間以外は山が
 ちな広島県に広がりきれなかつたが、丘陵地のタンポポであるキ
 ビシロタンポポは広島県にも広がることのできたのではないだ
 ろうか。岡山県の分布の中心は阿哲台の石灰岩地帯のように見える。広島県では帝釈峡から山野峡
 にかけての石灰岩地帯が分布域と重なっている。

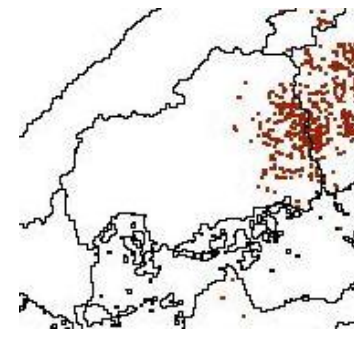


図6 キビシロタンポポの分布

e. 外来種

外来種はセイヨウタンポポとアカミタンポポ、その雑種と思われるものが記録されている。セイ
 ヨウタンポポは県内全域に分布し、データ数も非常に多い。広島県で分布域、個体数ともに最も多
 いタンポポであろう。

生育環境も幅広く、路傍のコンクリートの隙間などかなり厳し
 い環境から、山間地の林縁まで様々な環境にみられた。特に水田
 や畑の畦は場所によっては全面が黄色になるほど多くみられる
 こともある。もっと詳細な調査を行うことができれば、ほとんどの
 メッシュが埋まるかもしれない。

それに対してアカミタンポポは広島市や福山市、呉市などの市
 街地とそれを結ぶ主要な道路に沿って分布している。セイヨウタ
 ンポポよりも乾燥した厳しい環境に適応しているようである。セ
 イヨウタンポポよりもデータ数は少ないが、瘦果が無いため種不
 明の外来種としているものの中にはアカミタンポポがかなりの数
 含まれていると考えられる。一般的にセイヨウタンポポよりも小
 型で葉の切れ込みが細かいものが多いが、セイヨウタンポポの小
 型のものやアカミタンポポの大型のものは、瘦果を見ないと全く
 見分けることができない。

その他の外来種の中には総苞外片があまり反り返らない、雑種
 と思われるものも多くみられた。庄原市の国営備北丘陵公園で2004
 年に採集された標本のタンポポは、兵庫県の六甲アイランドで記録
 されているロクアイタンポポと呼ばれているものによく似てい
 るが、本調査ではデータを採取できていない。広島県で外来種が非
 常に多く見られるようになったのは1980年代頃からである。1970
 年代後半から1980年代に県内で広く行われた圃場整備事業と主要道の拡幅が外来種タンポポの分
 布拡大に関係しているのではないかと考えられる。

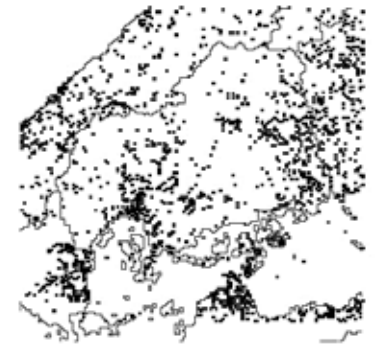


図7 セイヨウタンポポの分布

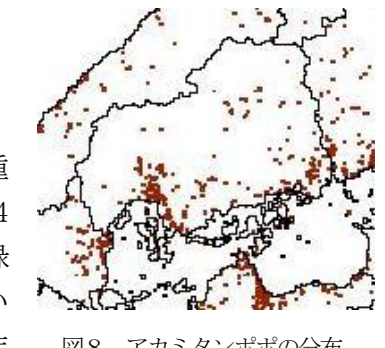


図8 アカミタンポポの分布

(3) 引用文献

広島大学理学部附属宮島自然植物実験所・比婆科学教育振興会編、1997. 広島県植物誌. 中国新聞
 社. 広島.
 浜田展也、1995. 広島県北東部に見られるタンポポ属植物. 研究紀要 5:117-130. 広島県立庄原
 実業高等学校.
 根平邦人・長弘通男・近藤勝彦、1979. 瀬戸内海地域におけるタンポポ類の分布. 広島大学総合
 科学部紀要IV. 環境科学研究 5:55-64.
 根平邦人・瀬川道治・小林祐子・金田典子、1977. 広島市におけるタンポポ類の分布状況. 植物
 と自然 11(2):18-20.
 根平邦人・瀬川道治・小林祐子・金田典子 1977. 広島城付近のタンポポ類の分布. 植物と自
 然 11(10):16-18.